

平成27年度第1回緑区区民対話会 議事要旨

<テーマ 「安全・安心なまちづくりについて」>

1 防災・防犯に係る施策について

- 当自治会では前年度の自治会役員が防犯パトロール隊として月2回活動している。ノボリやライトが無くて困っているため、2回目の支援物品の申請を行いたいと思う。
- 自分たちの自治会では2つのグループが防犯パトロールを実施しているが、若いグループでは、警察で青パトを借りて月に2回の見回りを行っている。その際には自分の自治会のみならず椎名地区全体を回ってもらっている。また、高齢者のグループでは散歩や買い物に行く際は、ベストと帽子を着用してもらっている。
- 資料に「防犯ウォーキングはボランティア保険の対象外になります」と記載されているが、万が一怪我をした場合は、自治会で対応するという事か。もしくは個人という事か。

<区役所の発言>

1人で行う防犯ウォーキングは、保険会社の事実確認が困難なため適用除外となり、2人以上で実施する防犯パトロールについては第三者の証言を得られるので保険適用となります。

- 年末に鎌取駅側のイオンで行なう特別警戒パトロールと椎名崎の近辺で区や地区の人が集まって行うパトロールとあるようだが、特別警戒パトロールの連絡が自治会には無かった。連絡は警察が行うのか。きちんと連絡があれば参加できたのだが。
- 連絡は地区連協の会長にいきます。いつも連絡が遅くて困るが、例年同じ日にちなんで対応している。ただ、イオンの前の広場に集まって鎌取駅まで実施するパトロール自体に本当に意味があるのか疑問。

<区役所の発言>

危険個所をパトロールすると同時に、地域の方々が集まって意識を共有する事も狙いとしています。

- 地域防災組織の育成を掲げているが、警察や市等の組織が多すぎてまとまりがない。最終的にはどこが主管としてやっていくのか整理してほしい。防犯の意識を高める為に組織を作ることも重要だが、一本化した組織でないとあまり意味がない。
- どういった意識で防犯活動を行うのかも重要である。それは防災についても同じことが言えて、有事の際に行政側から防災拠点に配置されるのが、近くに住んでいる人となっているが、それでは地域の事が分からず対応が難しいと思う。やはりその地域で働いている人を配置すべきだと思う。
- こういった対話会も新しく自治会長に就任する年度当初にやる方が効果的では。

<区役所の発言>

対話会の開催時期については、皆様の意見を踏まえて今後検討していきたい。

- 組織の一本化はぜひとも検討してもらいたい。防犯活動する上で、帽子など様々な物品を配布されるが、それぞれ警察、市から配布されており、物品の管理が混乱してしまう。
- 防犯パトロールを実施していると古くて見えなくなっている看板も多い。区連協の予算の中で新しく設置すること等を検討してみてもよいのでは。
- 防犯の帽子も 3 種類あって、同じ自治会内でそれぞれが活動しており、混乱している。
- 2年前から自主防災組織を作っているが、引き継ぎをされていなかった事もあり、去年から活動していない。皆さん忙しいとは思いますが、年度内には活動したいと考えている。
- 私のところの自治会では自主防災倉庫が無いので、購入した防犯グッズの保管の場所が複数にまたがり混乱している。資料に載っている補助金は自主防災倉庫の購入も認められるのか。またAEDのリース等にも使えるのか。

<区役所の発言>

AEDのリース、倉庫の購入共に補助の対象となっています。ただし、上限があるので自治会の負担も発生します。自治会が全額支払った後に市から補助金が支払われるという流れになってきます。

2 見守り活動に係る施策について

- ひとり暮らしの緊急通報システムという制度自体を知らない人が多いと思う。

<区役所の発言>

ひとり暮らしの世帯には民生委員が訪問してリーフレットを配布しています。また市政だよりも掲載していますが、なかなか周知が進んでいないこともあるので、今後は自治会長さんと連携して周知を図るなどを検討していきたい。

- 自治会内では民生委員が訪問してくれないという話をよく聞く。広報誌も字が小さくて高齢者にとっては読みにくいので、目を通していない人もいる。例えば回覧物で回せる資料はあるのか。

<区役所の発言>

簡単に要約した資料もあるので、必要ということであれば自治会の会議などでも配布していきたい。

- 私の自治会ではここ数ヶ月でひとり暮らしの方が3名亡くなっている。2名は50歳代で、1名は70代後半の方だった。民生委員の高齢者宅の訪問回数は決まっているのか。

<区役所の発言>

それぞれ民生委員の判断で行っており、訪問回数は決まっていないが、基本的に65歳以上の方については必ず訪問することになっています。民生委員も1,000世帯以上を受け持っているので、全部に目が行き届かせるのは難しく、地域の方の協力が不可欠です。65歳以上の方であれば緊急通報装置が利用できる所以、是非活用してもらいたい。

- 緊急通報装置を利用する際にこの「協力員の承諾」というのはどういった人か。身内とか隣人とかでもよいのか。

<区役所の発言>

協力員はあくまで連絡先という考え方なので、他県にいる身内や友達でも問題ありません。

- 私の自治会では高齢化が非常に進んでいるが、ひとり暮らしの高齢者がどこに住んでいるのか等は自治会全体で把握している。先日もいつも閉めている雨戸が開いたままだったという事で、心配した隣人が訪ねたところ倒れていたという事があった。このように地域全体が気を配る協力隊のようなものが重要。

<区役所の発言>

それは本当に理想的な地域だと思います。ただそういった地域ばかりでは無いのが現状で、誰にも看取られずに亡くなっていたといったケースが数年前から増えています。そういった事を未然に防ぐためにも、このような制度をより浸透させていきたい。

- 少し話は違うかもしれないが、今は様々な事情により50歳以上の1人の世帯が非常に多くなっており、このままだと高齢者の1人暮らしになってしまう。そういった事を防ぐ為にも、40代、50代を対象とした婚活パーティのような企画を市で実施しても良いのでは。
- 同様に敬老会のような高齢者が楽しく集まれるイベントの回数を増やしてほしい。また、そういったイベントに補助金を出してほしい。

<区役所の発言>

社会福祉協議会のいきいきサロンで補助金が出ていると思いますが、はっきりした事は分からないので確認してお知らせいたします。

- 高齢のため自治会の組長や役員のなり手がなくて、困っている。また自治会にメリットを感じずに脱退する世帯も増えてきている。
- 若い世代の中には盆踊りや神社の祭りなど積極的に参加してくれているので、今後役員や班長として積極的にやってくれる事を期待している。

3 その他

- 結婚していない人の増加、子ども達が家を出ていってしまう等で、どんどん地域の人口が減っていき一人一人の負担が重くなっている。農業をやっている人も頑張っって引き継いでいこうという人もいるが、やはり負担が大きくなり辞めて出て行ってしまふ。個人の考えなので周りがどうする事も出来ないが、そうなるとうひとり暮らし世帯が増えていくことに繋がり、地域としての未来に不安を覚える。

<区役所の発言>

実際若葉区の大宮町あたりだと高齢化率が約50%になっており、緑区でも古い団地等ではそういった事が起こっています。確かに具体的にどのような対応をしていくのか難しいところではありますが、地域住民の方々と一体となって考えていきたいと思えます。